

平成20年度 京都府立峰山高等学校 弥栄分校 学校経営計画 (まとめ段階)

学校経営方針(3～5年の中期経営目標)	昨年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
<p><b>全教育活動をととして、生徒・教職員がともに成就感と感動を味わえる、明るくさわやかな学校づくりに努める。</b></p> <p><b>【地域と連携した弥栄キャンパスの教育】</b></p> <p>① 分校の特色であるきめ細かな指導による、地域の教育要求に応える教育の推進</p> <p>② 校種間、専門機関と連携した、地域と一体となった教育の推進</p> <p><b>【農園芸・家政・環境教育を生かした魅力ある教育と個性を生かす教育の推進】</b></p> <p>① 農業の多面的機能を視野に入れた農業教育の実践</p> <p>② 省エネ・環境保全型社会に対応した環境及びエネルギー教育の実践</p> <p>③ 家政科における生活産業分野で活躍できる人材の育成</p> <p><b>【自立精神の育成】</b></p> <p>① 人を大切にし、同時にモノを大切にす人材の教育</p> <p>② 主体性と社会性を兼ね備え、向上心に富む人材の育成</p> <p><b>【特別教育活動の充実】</b></p> <p>① 部活動や生徒会活動を活性化し、望ましい集団活動とおした集団の一員としての規律・マナーの育成</p>	<p><b>【成果】</b></p> <p>① 地域と連携した専門学科の取組、地域に開かれた文化活動の推進(奈具丘祭など)</p> <p>② 学校評価導入による学校改善点の明確化</p> <p>③ 特別支援教育のスタートができた。</p> <p>④ 和の文化、郷土の文化、環境学習の教材化</p> <p>⑤ 社会人講師の活用による魅力ある授業の創造</p> <p>⑥ 年2回の生徒授業評価による「わかる授業」の創造</p> <p>⑦ ボランティア活動の推進</p> <p>⑧ 奈具丘通信等による広報活動の推進</p> <p>⑨ 漢字テスト年間成績優秀者の急増</p> <p><b>【課題】</b></p> <p>① 「わかる授業に」向けた一層の授業改善と評価規準や評価方法の研究</p> <p>② 学業不振・欠席時数オーバーに起因する中退・原留防止のための組織的な指導</p> <p>③ 社会人として通用するマナー指導(継続的、段階的指導)</p> <p>④ 他者への思いやり(不快な思いをさせない等)の育成</p> <p>⑤ 規範意識の向上と指導困難生徒への指導徹底</p> <p>⑥ 幼・小・中学校との校種間連携の推進</p> <p>⑦ 心に問題を持つ生徒への対応</p> <p>⑧ 特別活動、部活動の活性化</p>	<p>① 「わかる授業」づくりの推進(シラバス・評価方法研究、授業改善)</p> <p>② 専門学科の特長を生かした地域連携の推進</p> <p>③ 社会人として通用するマナー指導の推進</p> <p>④ 規範意識、他者への思いやりを育てる指導の推進</p> <p>⑤ 高校生活充実のための保護者への連絡徹底と連携した指導の推進</p> <p>⑥ ボランティア活動の充実・発展</p> <p>⑦ 配慮を要する生徒への定期的な指導、きめ細かな指導の推進</p> <p>⑧ インターンシップの実施</p> <p>⑨ 特別活動、部活動の活性化のための取組の推進</p>

分掌名	評価領域(業務領域)	項目(重点目標)	具体的方策	評価	成果と課題		
0	組織・運営	組織間の連絡・協力体制の確立	分掌・学科・教科・学年間の連絡を密に行い連携を強化する。 怠学防止に結びつく学習状況報告を充実する。	B C	B B	結果として欠席超過で不認定になる場合は少なかった。クラス出席簿への出席転記とその活用を定期的・組織的に行う方法を模索したい。	
1	教務部	学力の向上	週末課題を出す。 学習習慣をつけさせる。 学力の向上を図る。	A B C	B B	B B	考查時には7割以上の生徒が家庭学習をして受験。日常的には週末課題の提出者の割合と同じで2割。この割合の向上と「学ぶ姿勢の確立」が課題
2	生徒指導部	生徒指導	学校行事を計画的に実施する。	B	B	B	3学期に「学校祭・奈具丘祭の成果と課題」に限定した研修会を開催し、それぞれの思いを共有することができた。次年度に生きる研修会であった。 諸般の事情で教職員研修を実施することができなかった。人権学習についてはほぼ計画通り実施できた。
			生徒会・委員会・部活動の活性化に向け支援する。	B			
	生徒心得を遵守させる。	B					
含人権	人権教育	生徒・教職員の人権意識の向上	早期に年間計画を作成する。	B	B	B	
			学期に1回の人権学習を行う。	B			
			人権教育についての教職員研修を行う。	C			

分掌名	評価領域 (業務領域)	項目(重点目標)	具体的方策	評価	成果と課題		
3	進路指導部	進路指導	希望進路の実現	3年生の希望進路を実現させる。	C	インターシップは7名が参加し、有意義であった。3年生の進路実現が困難であり、低学年からの具体的指導が重要である。	
			生徒の進路希望を把握し、適切な情報提供を行う。	B	B B		
			インターンシップを実施する。	A			
4	図書情報部	読書指導等	読書習慣の定着と図書及び芸術作品を通しての豊かな人間性の育成	読書推奨のために、年1回の「読書の時間」を設定する。	B	芸術鑑賞とビデオ鑑賞会についての生徒の反応は良好。事前指導も充実出来た。図書の利用率と読書感想文の提出率のさらなる向上を目指す必要がある。	
			情報の共有化及び図書館利用を活性化させるために案内・冊子を発行する。	B	A A		
			情操教育の一環として芸術作品に触れる機会を設定する。	A			
			公立図書館との連携を図る。	A			
5	保健部	健康・安全教育	食生活の確立	自分の健康状態に関心を持つ。	B	様々な方法で啓発活動はできたが、家政科との連携による栄養指導は出来なかった。特別支援の研修内容を深めることができた。気になる生徒を抽出し、この視点で生徒を検討した。校内委員会は実施せず。	
		家政科と連携して取り組む。	D	B B			
		生徒保健委員会と一緒に取り組む。保護者にも呼びかける。	A				
	特別支援教育	特別支援教育の取組	教職員研修を行う。	B	B		
6	庶務部	開かれた学校づくり	保護者がPTAに参加しやすい工夫	関係分掌と連携をとりながら行事を円滑に進める。	B	行事は、ほぼ予定通りであった。PTA活動は回を重ねる毎に参加者減となり課題が残る。	
			会員と連携を取り、PTA活動への参加を促す。	D	C C		
7	農学部	教科指導	授業や実験実習、校外研修におけるルール・マナーの向上	作業の安全性を図るため、服装・頭髪などの指導を行う。	B	年間を通して授業・実習前には服装などの点検指導を実施してきた。3年生を中心に幼稚園・あじわいの郷・課題研究などで交流もできた。	
		学科教育の推進	ボランティア活動・校種間交流など、地域との連携	丹後あじわいの郷「フルーツガーデン等におけるボランティア活動の継続	A		A A
		地元幼稚園児に対する草花の栽培指導	A				
8	家政部 (含教科)	教科指導	生活産業で必要とされる基礎力の定着	分野ごとに基礎知識・技能が定着できる指導を行う。	B	基礎知識・技術の定着を狙い補習等で指導した。課題研究は、重点の絞り込み、生徒の活動を高める指導の工夫が必要である。生徒の躰きをほぼ把握し個に応じた指導に努めた。奈具丘祭では生徒の自主的な取組もでき、リーダー育成もできた。地域の参加者も多くなっている。食育は一層の取組が必要。	
		生徒が意欲的に取り組める課題研究の指導を行う。	B	B B			
		生徒のつまづきを、予想を立てて指導する。	B				
		和(郷土)の文化を教材化する。	B	B B			
	学科教育の推進	「温故知新 in 家政科」をテーマに”新しい豊かさ”の研究	「LOHAS」をキーワードに取り組む。	B			
	地域と連携した家政科教育を推進する。	A					
9	1年部	生活指導	自覚と誇りを持ち安全で規律ある高校生活を送る生徒の育成	家庭との連携を密に行う。	B	全体に落ち着いて授業を受ける姿勢が身に付いてきた。多少積極性に欠ける面も見られ、進路実現に向けて啓発していく必要がある。	
			クラス全体及び生徒個人の理解に努める。	A	B B		
			学級経営を通して生徒の協調性を養う指導を心がける。	B			
10	2年部	学習指導	学校生活の充実と学力向上	遅刻・欠席をさせない。	B	クラスにより温度差があるが、概ね達成できた。	
			家庭との連携を密にし、進路目標を明確にする。	B	B B		
			学習環境の整備	B			
			漢字テストへの取組を強化する。	B			
11	3年部	進路指導	一人一人の進路目標を達成	面談を通じて、個々の進路希望を把握する。	B	進路実現に向け、継続的に問題意識を持たせる指導が浸透しなかった。進路部と連携した4者面談も未だ効果が発揮されず未定が残る。	
			クラス全体及び生徒個人の理解に努める。	C	C C		
12	事務部	施設設備管理等	安心で安全な学習・校内生活環境整備の促進と維持管理	施設設備の安全点検等を行う。	B	定期的巡回に努め、危険箇所及び修繕要望に早期の対応・改修が出来たと思う。来訪者への対応も適切迅速に出来たと思う。	
			来校者・電話等の対応に対し、親切・丁寧・迅速に対応する。	B	B B		

分掌名	評価領域 (業務領域)	項目(重点目標)	具体的方策	評価	成果と課題	
13	国語科	学習指導	漢字指導を強化する。	B	B	種々の作文等コンクールに作品を多数応募できた。漢字検定も受検を推進し、準2級をはじめ多数合格者を出すことができた。
			文学作品を通し、読解力を向上させる。	B		
			作文・小論文指導を行う。	B		
14	地歴公民科	学習指導	問いかけのある授業を行う。	B	B	教員側がやるべきことは計画通り実施できた。生徒の反応も向上。教員は現実教材の開発と3年生でも「学ぶ姿勢」の確立が課題。
			具体的な教材を準備する。	B		
			基礎力テストで基本の力をつける。	B		
15	数学科	学習指導	プリントを活用して反復練習を行う。	B	B	数学への苦手意識を持つ生徒に板書や模型使用など工夫したが、一層の工夫が必要。小テスト回数増など学習習慣の継続・定着が必要。
			演習時間を増やし、自発的に取り組ませる。	B		
			理解度を確認するため小テストを実施する。	C		
16	理科	学習活動	身の回りの自然と環境について理解を深めさせる。	C	B	小テストは実施出来ていない。顕微鏡の操作はほぼ習得できた。視聴覚教材は計画的に利用でき、レポート内容も良いものが増えた。
			実験の時間を確保する。	B		
			視聴覚教材を活用する。	B		
17	保健体育科	学習活動(体育)	各種目の特性に応じた個人技能・技術を系統的に指導し習熟させる。	B	B	体育の分野についてはおおむね達成できた。スキー教室も実施できた。保健に関する学習では、年間を通して必要な資料プリントを準備・活用しながら授業を進められた。性については時間の関係でビデオ教材が使用出来ていない。
			グループ活動を通して、協したり責任を果たすことを学ばせる。	B		
			生涯を通じてスポーツに親しむための資質を養う。	B		
	学習活動(保健)	健康の現状と問題、対処・予防法を理解させる。	B	B		
		「性」について人間の生と関連させて理解させる。	C			
		2年では2学期に課題学習を実施する。	B			
18	芸術科	音楽	読譜・視唱の時間を設定する。	B	B	1年を通して多数の曲を習得。原語歌唱も意欲的に歌えたことは一つの成果。視聴覚教材の時間確保が課題。全体的に落ち着き、対象物を丁寧に観察する姿勢が見られる。美術の目標をほぼ達成出来たが、計画的な制作の面で工夫が必要。書道実技の面では、十分に目標に達することができたと思う。ただ臨書する際の作者や作品の背景理解が課題。
			器楽アンサンブルや合唱に取り組む。	B		
		美術	コンクール応募を目標にして、デッサンの基礎力を育てる。	B		
	一般応募ポスターコンクールに応募する機会を与えることで、向上心を育てる。		B			
	書道	臨書体の臨書活動を中心に書写に取り組む。	B	B		
		実生活で多用する行書体を習得する。	B			
19	英語科	学習指導	講座や個々の生徒の学力に応じたプリント等の教材作りに努め、学習習慣の定着を図る。	B	B	今年度1・3年生には基本単語の学習、1年生には考査直前確認テストなどを組み入れることができた。しかし、4技能のバランスには配慮出来ていない。
			わかりやすい授業作りを目指し、板書や説明を工夫する。	A		
			小テストを活用し基礎学力と応用力を身につけさせる。	C		
次年度に向けた改善の方向性		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「わかる授業」につながる授業改善を、校内での交流も含めて一層進める必要がある。</li> <li>○ 家庭学習調査を継続し、家庭学習の定着を図る指導の研究を行う。</li> <li>○ 配慮を要する生徒の課題を明確化し、組織的な連携・支援を行う。</li> <li>○ 専門高校の楽しさを伝える広報活動を充実する。</li> <li>○ 1限目の遅刻・欠席に現れる生活面に課題を持つ生徒に対して、連携した指導を継続的に行う。</li> <li>○ 奈具丘祭・ボランティア活動など地域との連携した活動を強める。</li> </ul>				